

1.受付番号	2024-011
2.研究課題名	英語要約分析的評価ルーブリック使用時の認知的負荷の検討 ―視線計測装置による評価者の視線の動きに着目して―
3.研究期間	令和 7 年 1 月（倫理委員会承認後）～ 令和 7 年 3 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 文部科学省が中等教育における外国語（英語）科目において英語要約を含む技能統合型スキルの育成を強化したこと、さらには令和 6 年度より公益財団法人日本英語検定協会の実用英語技能検定の 2 級以上のライティング・タスクにおいて、英語要約タスクが導入されたことから指導法同様に学生にフィードバックを提供できる分析的評価ルーブリックの開発が急務となっている。しかし、ルーブリックの開発において重要なことは、妥当性だけではなく実用性も考慮することである。 本研究では、ハイステイクス・テストとして認知されている英検に導入された要約ライティング・タスクのために存在する分析的評価尺度が一般公開されていないという現状を考慮し、英語要約を指導の一環とするローステイクス・テストと捉える。そして、様々な英語能力（CEFR A2～C1）を持つ日本人英語学習者が作成した英語要約文を評価する際に、評価参加者が直面する評価の難しさが評価の信頼性に影響を与えるということに着目する。したがって、本研究の目的は、英語要約文の評価参加者が評価を行う際に直面する評価のし辛さやスコア決定の難しさを主観的意見として回答したアンケート結果だけではなく、視線計測装置を用いて評価参加者の視線の動きを調べることで生理学的根拠として証明することである。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 英語教授歴を有する日本語母語話者である男女 20 名 ・大学院生および高校もしくは大学で英語を教えている現役英語教員 ・英語能力は英検準 1 級以上、TOEIC 850 点以上、TOEFL iBT 80 点以上のいずれかに該当すること ・眼鏡の使用が不要な者（コンタクトレンズは可） IELTS Examiner や英検ライティングセクションの評価経験者にも依頼予定 【データ収集プロセス】 ①評価参加者には、事前に十分な説明を行ったうえで自由意志での参加を

	求める。 ②評価参加者には、英文のソーステキスト、分析的評価ルーブリック (Kato, 2024)、英語要約文、モデル要約とメイン・アイディアリスト((Kroll (1977) のアイディア・ユニットの定義に倣い、研究実施者の先行研究 (東北大学大学院文学研究科 調査・実験倫理委員会(調査研究)で受審) で評価参加者間での議論の末、決定したもの)、を事前に配布し、内容を熟知してから実験に参加してもらうよう依頼する。また、評価者訓練は作成録画を元にオンラインにて実験前に視聴してもらい訓練を行う予定である。(録画の作成に関しては、「東北大学大学院文学研究科 調査・実験倫理委員会(調査研究)で承認を受けたのち、当該研究における評価者訓練を行い、その後作成を行う。) ③モニターに、以下 3 つの画像を提示し評価を行ってもらう。その間の評価参加者の視線の動きを測定する。(モニター画面は PsychoPy を使用して実施責任者が作成) ・英文のソーステキスト (英検準 1 級および 2 級の読解セクション過去問) ・分析的評価ルーブリック (Kato, 2024) ・英語でかかれた要約文 (10 部× 2 種類=計 20 部) ④視線計測は上智大学国際言語情報研究所 音声学研究室所有の gazeport GP3HD を使用する。測定の間、各評価項目のスコアを口頭で伝えてもらい、実施責任者および実施担当者が記録をする。また、その間の様子は事前に参加者より許可を経ってから音声記録として録音する。評価終了後に、評価参加者の属性および評価に関する選択式および自由記述式アンケートに回答してもらう。 ⑤実験参加の同意書にサインをしてもらう。 ⑥実験終了時には、謝金 (5000 円分のプリペイドカード) を贈呈する。 ⑦本研究の分析・解釈は実施責任者および実施担当者で行う。 問い合わせ・苦情等の窓口 (講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと) 東北大学大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」倫理審査委員会事務局 (022-795-6103)
--	---

(紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。)